

5 月度 例会 個人 山行報告書		報告者	吉川浩行	参加 メンバー	CL:竹内 SL: 江頭、松中、吉川 大矢(父子)
		報告日	06 / 14		
山 域	東濃・恵那山系	山行日	06年 05月 27日(土)		
山 名	恵那山				
山行目的	東濃の山々を登る		コースタイム(天候: 天気図記号)		

配布先
集会:12
山行: 1
リーダー
原紙: 集会担当者

<p>ルート図(地図を見て正確に)</p> <p>2.5 万分の 1 地図: 中津川、美濃焼山</p>	<p>5/27 曇りのち時々晴れ</p> <p>05:58 本社丸田町P発</p> <p>07:00 屏風山 PA 発</p> <p>07:46 黒井沢登山口前P着</p> <p>08:05 登山開始(江)</p> <p>08:40 菅林署小屋着 (小休止)08:50 発(吉)</p> <p>09:40 野熊ノ池小屋前着 (小休止)09:51 発(松)</p> <p>10:40 1992mピーク過ぎ着 (小休止)10:51 発(江)</p> <p>11:50 山頂避難小屋着</p> <p>12:00 (小休止: ココア振舞有)</p> <p>12:10 2191mピーク着 (富士見台方面探索)</p> <p>12:23 再度 2191mピーク着</p> <p>12:40 山頂避難小屋前通過</p> <p>12:45 恵那山頂着 (大休止)13:00 発(吉)</p> <p>13:55 冬道分岐手前着 (小休止)14:08 発(松)</p> <p>14:56 野熊ノ池小屋前着 (小休止)15:08 発(江)</p> <p>注: 発の後のカッコ内は SL を示す</p>
---	--

山行報告中津川市内から望む恵那山は少し雲がかかるも、気温は平年並みと絶好の登山日和となった。身支度もそこそこに登山口ゲートを潜る。(雨具未装着での出発はラッキーの感) まず菅林署小屋までは黒井沢沿いの雑木林を突き進むが、枝沢渡りあり、花ありの緩やかな傾斜。特に植林されているカマツの新緑は圧巻だ。同小屋前で一本取り、その後徐々に傾斜がきつくなるも、裕貴君も果敢に攻めている。今回の山行では大矢先輩の提案で新人3名が順にトップを歩く事となり、地図読み、コース取り、ペース配分等考慮しながら進める課題が与えられた。木々の間から時おり驚さえずも、トップでは耳にも十分届かぬ緊張を味わいながらの山行。大変新鮮でかつ貴重な経験だったが、山頂までの標識に2種類あるのは戴けない(表示する距離に差があり早期改善を望む)。地図読みでは次に来る地形を予測しなければと思うが、ここに来て未熟さを実感する。休憩は50分に1回10分程度と理想的な配分のペース。1992m過ぎで一本とった後、冬道分岐を意識していたが全く見落としてしまった。(帰路、大矢さん指摘で見つけるも、背丈ほどもある笹が生い茂り、夏冬における違いを感じた一幕) 間もなく時折残る雪場を過ぎ、なぜか山頂避難小屋で暖かいココアと玉子酒を“ごち”になる。そして山頂を目指して進むも2191mピーク過ぎても三角点見当たらず、この玉子酒で錯乱されたかのように。結局山頂付近を歩き回り12:45 恵那山制覇。写真撮影の後、にわかに雨を感じ、行動食補給もそこそこに13:00 下山を開始。これを過ぎると(前夜の雨と雪解けの影響か)道はぬかるみ、足元がままたまらない。やがてガレ場に差し掛り、時折つぼみが膨らんだ福寿草が足元に顔を覗かせる。足の踏み場に困ると同時に、少し癒される瞬間であった。

(当初折り返し予定時刻での下山)冬道分岐点まで戻ると晴れ間広がる清々しい景色が疲れを癒してくれる。更に菅林署小屋近辺まで戻ると辺りの景色を見る余裕もでき、ミナナノ緑や足元に光るキノコが印象に残る。

[総括] 人目優しい新緑に包まれた夏山で、しかも明確なトレースに助けられたロングコースだったが、フットワーク以上に得るもの多かった山行でした。また浩貴君においても貴重なデビュー戦であり、大きな自信になるだろう。

リーダー所見 予想していた天気外れのおかげで雨に降られず、快適に歩くことができ、また、メンバーのほとんどは、初めてのコースということもあって新鮮な感じで、登頂することができました。雪は頂上付近にわずかに残っている程度で普通に夏道を進むことができた。コースタイムは6時間半ほどかかったが、いいペースで進むことができ、新緑の中で鳥の鳴き声を聞き、自然を楽しみながら無事山行を終えることができた。



ようやく見つけた恵那山頂で記念撮影。皆さん大変ご苦労様でした。

確認
(リーダー)
竹
06/06/09
内
作成
(報告者)
吉
06/06/02
川